Message

ダイバーシティ経営の推進、社会への積極的な発信を期待します。

社外取締役
大坂 祐希枝

[profile]
（株）日経ラジオ社、東京メトロポリタンテレビジョン（株）、（株）WOWOWを経て、2014年（株）WOWOWコミュニケーションズ取締役。2018年（株）明光ネットワークジャパン取締役。2021年から当社の社外取締役に就任。現在、（一社）カスタマーサクセス推進協会代表理事、さくらインターネット（株）社外取締役を兼任。

外部の発想を取り入れ、スピード感を大切に

2年前に当社の社外取締役に就任しました。この間、全国の工場や農場に伺う機会があり、牛や豚の肥育、加工品の製造、物流など一連のサイクルへの理解を深めることができました。また、当社が掲げている行動指針が、現場における品質管理や安全・安心、コンプライアンス、環境への取り組みにしっかり落とし込まれていること、そして、「食べるものをつくる」ことに対する従業員の皆さんの責任とプライド、おいしく食べてもらうためのたゆまぬ努力を実感しました。

こうした機会を通じて、当社グループの従業員は、まじめで堅実、物事を慎重に進める傾向があり、それは良いことと感じています。事業環境の変化に合わせ、今後、よりスピード感のある動きが増えるとさらに当社の強みが発揮されていくと思います。

私は、これまでのキャリアの大半をメディアに身を置いてコミュニケーションの仕事をし、その後もマーケティングを専門として経営に関わり、多くの企業や経営者と出会ってきました。そうした経験で得た知見を、指摘や提案という形で、さまざまな考え方のひとつとして提供させていただくことで、当社の企業価値の向上に貢献していきたいと考えています。

より実効性の高い取締役会に向けて

取締役会では、社会情勢やコーポレートガバナンス・コードなどの時期をとらえたテーマが取り上げられ、議論されています。「厳しい指摘も発言してください」と言われており、社外取締役は、忌憚なく意見を述べることが求められていると理解しています。すぐには反映しにくいことでも、そこに課題があれば、中長期的な企業価値の向上に必要と思われる指摘や提言を続けることが、社外取締役の大切な役割であると認識していますので、社内事情や思惑などには極力忖度せずに発言することを心がけています。

取締役会の前には社外役員に対するブリーフィングが行われており、取締役会に上程される議案について上程部局から説明を受ける機会が設けられています。一方で、取締役会では、結果や結論の説明はもちろん必要ですが、意思決定に至るまでのプロセスが議案として固まる前のタイミングで共有されることも大切だと考えています。案件によっては、適切なタイミングで今何が起きているのかを知り、アドバイスできることがあればアドバイスし、不足していると思われる検討や視点を指摘できると、取締役会での議論がさらに活発になるのではと感じます。また、決議事項や報告事項に時間を要する取締役会では、なかなか議案外の事項について議論する時間がとれないため、取締役会とは別の場で議論できるのが望ましいと考えます。取締役会への上程議案以外のテーマについて議論する場がすでに設けられていますので、今後こうした機会がさらに増えると良いかもしれません。2023年度は、次期中期経営計画の策定時期ですので、より客観的な視点を盛り込めるよう社外取締役も関与していきたいと考えています。

企業価値向上に向けた課題と期待

どのような企業も、既存の取り組みの継続だけでは、この後の成長が見込めないという時代になっています。このような環境下、企業には社会に対して新たな価値を提供していくことが求められていますが、これを実現するにあたり、当社グループには大きく2つの課題があると考えています。

1つ目は、中核人材層の多様性の確保です。成長に向けて新たな価値を創出するには、現在の業務に習熟しているだけではなく、さまざまな発想を生み出すことができる多様な背景を持った人材が必要であり、組織の同質化は将来的に大きなリスクとなり得ます。女性管理職比率の向上、外国人の採用、デジタルなどこれからの時代に欠かすことができないスキル・経験を持つ人材の採用を積極的に行い、トップが強くコミットして、ダイバーシティ経営を進めてほしいと思います。企業が持続的に成長していくための戦略のひとつがダイバーシティ・エクイティ＆インクルージョンです。当社グループは、女性管理職比率や女性係長比率に関するKPIを策定し、取り組みを進めてきたことでこれらの指標は年々増加傾向にありますが、更なる改善に向けて大胆に手を打っていくことも必要であると感じています。

2つ目は、社会への発信の強化です。当社には、まだその価値を社外に発信しきれていない、開発力や商品、これらを生み出す体制や取り組みがあります。そうした強みを認識して、もっと広く知らせる姿勢があっても良いと思いますが、当社は奥ゆかしくて、アピールがほどほどの面があるように思います。

将来的にたんぱく質クライシスが懸念される中、たんぱく質を供給する当社グループは、社会にとって非常に重要な役割を担っています。社内の人には当たり前で特別なことに感じられないことが、世の中では大きな意味がある場合があります。食肉や加工食品はもちろん、大豆ミートなども含めたたんぱく質食品について、未来につながる取り組みも進めています。従来実施している販促やテレビCMだけでなく、広報の分野にも力を入れ、このような取り組みをストーリーとして訴求することも含め、発信力を強化することが成長につながると考えます。